

令和7年度指定管理者業務モニタリング評価表

施設名	穂の国とよはし芸術劇場
所在地	豊橋市西小田原町123番地
指定管理者	公益財団法人豊橋文化振興財団
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日
担当課	文化・スポーツ部文化課(0532-51-2873)
令和6年度指定管理料 (決算)	81,329千円
令和7年度指定管理料 (決算見込)	80,882千円

項目		基準	評価				
管理業務の実施状況に関する項目	維持管理業務の実施状況	仕様書等に基づき施設の適切な維持管理業務が行われているか。	維持管理は特別目的会社が行っている。				
	自主事業等の実施状況	事業計画書等に基づいた施設の設置目的に沿った事業が実施されているか。	助成金等を活用しながら舞台芸術の鑑賞機会を創出するとともに、若手音楽家育成事業などの舞台芸術人材育成事業などを実施している。				
	人員配置等の業務体制	仕様書等で定めた人員配置がなされているか。また、労働環境が関係法令等を遵守した適正なものとなっているか。	事業計画書のとおり適切に人員配置がなされており、労働環境は関係法令等が遵守され適正なものとなっている。				
	職員研修の実施状況	事業計画書等に従い職員研修が実施されているか。	事業計画書に基づき定期的に研修が実施されている。				
	個人情報保護の措置状況	協定書の個人情報保護規定に基づき、個人情報が適正に管理されているか。	協定書等の個人情報保護規定、公益財団法人豊橋文化振興財団個人情報保護規定に基づき適正に管理されている。				
	環境への配慮状況	温室効果ガスの排出量の削減を含む環境への配慮が実施されているか。	使用していない部屋はこまめな消灯と空調の停止を行い、省エネルギーに努めている。				
	緊急時対応への取組状況	緊急時の連絡体制があり、かつ訓練等が実施されているか。	マニュアル、非常連絡網が整備され、定期的に避難訓練等も実施されていることから、十分な取り組みがなされている。				
施設利用状況	施設利用の許可状況	利用者の公平な選考を確保しているか。	利用者の決定は、規則・要綱に則り適正に行われている。				
	施設利用状況	前年度と比較した利用者数等についてはどうなっているか。 (利用状況を数値化して令和6・7年度を比較)		R5年度	R6年度	R7年度	比較(R7-R6)
			開館日数	350日	349日	348日	▲1日
			利用者数				
			a.主ホール	90,601人	83,916人	107,294人	23,378人
			b.アトスペース	30,642人	31,234人	31,449人	215人
			c.創造活動室	19,142人	19,851人	19,745人	▲106人
			d.研修室	12,380人	15,786人	10,866人	▲4,920人
			e.交流スクエア	32,299人	30,755人	32,987人	2,232人
			計	185,064人	181,542人	202,341人	20,799人

施設利用状況に関する事項

サービス向上等への取組状況

施設PRやサービス向上の取組みは実施されているか。

【要因分析】主ホールはテレビ局等との共同主催・共催による演劇公演を多数開催したことにより、利用件数が前年度比118%、利用人数も同129%と大きく増加した。アールスペースは財団主催事業の利用が減少した一方、一般貸館利用が増加したことで件数・利用者数ともにほぼ前年度並みを維持した。創造活動室ABCDは高校演劇関連の利用増加や個人・小規模グループの新規利用者定着により利用件数112%と増加し、利用料金収入も前年度比118%と大きく伸長した。研修室は大・小ともに継続利用していた企業・団体の減少により、前年度比で利用件数81%、利用者数69%となった。施設全体としては、利用件数・利用者数はいずれも前年度を上回り、堅調に推移した。

・ ホームページやメールマガジン、劇場SNS、劇場広報誌、まちなか図書館トークイベントをはじめとする各種広報活動により、イベント情報の発信、施設PRを効果的に行っている。

・ 劇場の特性を活かした自主事業の実施により、利用者サービス、施設の認知度向上に努めている。

・ 映像配信用の備品の配備にともない、前年度に引き続き映像配信講座や映像収録講座の実施および、映像配信機材の備品利用者への指導・サポートに努めている。

・ 芸術文化に関する高い専門性と豊富な経験、知識を有する職員を配置することで、質の高い舞台芸術公演を実施し、市民の鑑賞体験を蓄積するとともに、市内外からの来場者を増やすことでまちなか活性化にも貢献している。

・ 舞台説明会や舞台手話通訳付き公演を始めとした取組を強化することで、「あらゆる人が参画できる」劇場を実現しようとしている。

利用者満足度調査結果

利用者への満足度調査(アンケート)等を実施し、業務改善を実施しているか。(指定管理者が自ら行ったアンケート結果に基づく)

総合的満足度は、「とても満足」45.9%、「まあ満足」37.8%、「普通」14.3%と、肯定的な評価が全体の93.4%を占めている。個別項目では、利用申請等の手続きに関して「やや不満」5.8%、「とても不満」1.7%、利用料金について「やや不満」8.3%となっており、手続きや料金に対するご意見がうかがえる。条例等に則った運用を基本としつつ、丁寧な情報提供やサービスの質の維持・向上を通じて、ご利用の皆様にご理解とご満足をいただけるよう取り組んでいく。

意見箱等

意見箱等に寄せられた具体的な意見

内容

対応

予約をインターネット上でできるようにしてほしい。

目的や内容に沿った利用案内が必要なため対応不可

スタッフの対応が良い

—

苦情・トラブルへの対応

利用者の苦情等への対応は適切であったか。

適切・迅速に対応している。

管理経費等の収支状況等

経費等の執行管理状況

資金の適正な管理と経理内容の明確化が実施されているか。

資金管理は確実に行われている。また、指定管理業務とその他の業務を区分し適正に経理されている。

経費等の収支状況

収支状況が収支計画書と乖離していなかったか。

指定管理業務については概ね収支計画書通りの収支状況となっている。自主事業については、収支ともに計画を下回る結果となった。

収入の部

支出の部

指定管理料

80,882千円

指定管理事業費

129,742千円

利用料金収入

45,919千円

自主事業

41,511千円

自主事業収入

38,817千円

その他収入

3,935千円

収支差額

-1,700千円

指定管理者の提案事業の実施状況	主な自主事業として以下の事業を実施しました。 ○年間プログラム説明会 令和7年4月26日(日) 参加者数98名 ○若手音楽家育成事業「ワンコインコンサート」 令和7年5月～令和8年3月に9回のコンサートをアートスペースで実施しました。 入場者数1,552名 ○東京サンシャインボーイズ「蒙古が襲来」 令和7年4月18日(金)～20日(日) 主ホール 4回公演 入場者数3,008名 ○「星の降る時」 令和7年6月27日(金)～29日(日) 主ホール 3回公演 入場者数2,070名 ○「ライフ・イン・ザ・シアター」 令和7年10月4日(土)～6日(月) 主ホール 4回公演 入場者数3,037名 ○「ヴォイツェック」 令和7年10月31日(金)～11月2日(日) 主ホール 4回公演 入場者数1,447名 ○東三河高等学校演劇部活動支援 通年 計18日 参加者数7,489名 ○ピアノ試し弾き 令和7年6月～令和8年1月に12回実施しました。参加者数87名 ○インターンシップ 通年 6名
当年度の対応方針	市民に一流の舞台芸術を体感する機会を提供しながら、施設の利用者数を増やし、さらには地域のにぎわいにつながるような、拡がりのある施設運用、自主事業の展開を求めらる。
指定管理者の自己評価	穂の国とよはし芸術劇場は、演劇やダンスをはじめとする東三河地域の舞台芸術をリードする拠点として、自主事業の開催だけでなく、貸館事業を通じてプロフェッショナルから市民文化団体まで、幅広く利用されている。地域の文化芸術の拠点として、市民の文化的生活の充実に寄与し、その発展と交流に貢献する公共施設としての役割を果たしている。 市民利用からプロフェッショナルまで、多様な舞台芸術に対応可能な高度な設備と、それを的確に運用する専門的な知識・経験を持つ技術・企画制作の両面における人員体制は当施設の大きな強みであり、地域に根ざした芸術文化活動を支える基盤となっている。 令和7年度は、テレビ局等との共同主催・共催による演劇公演を積極的に展開し、主ホールの利用件数は前年度比118%、利用人数は同129%と大きく回復・伸長した。施設全体でも利用件数4%増、利用人数11%増と堅調に推移し、利用料金収入は令和6年度を上回った。また、利用者満足度は93.4%と高い水準を維持しており、市民の皆様に質の高い施設環境を提供できている。 一方で、電気代をはじめとする光熱費の高止まりに加え、人件費や一部委託費の上昇といったコスト面での課題も継続しているが、省エネルギー運用の徹底により対応に努めた。 自主事業については、東京サンシャインボーイズ「蒙古が襲来」をはじめとする共同主催公演を通じて延べ約9,500人の鑑賞機会を提供したほか、若手音楽家育成事業「ワンコインコンサート」、東三河高等学校演劇部活動支援など、鑑賞から人材育成まで幅広い事業を展開した。さらに、舞台手話通訳付き公演の実施など文化芸術へのアクセシビリティ向上に取り組むとともに、接遇・ハラスメント研修による職員の資質向上を図り、誰もが文化芸術に親しめる環境づくりを推進することで、地域における芸術文化活動の拠点としての役割を果たしている。

総合評価	戦略的に共同主催・共催事業を活用し、三谷幸喜氏作・演出の「蒙古が襲来」や東三河高等学校演劇部活動支援を始めとした計9つの魅力的な自主事業を展開することで、施設利用件数・人数を大幅に引き上げることができた。また、専門的な知識や経験を持った技術・企画制作スタッフたちにより施設利用者への的確な対応がなされており、その結果が施設利用者の満足度やリピーター率、評価の高さに表れていると考える。
次年度の対応方針	引き続き、舞台芸術をはじめとした芸術文化の創造・発信の拠点として地域の期待に応えるとともに、人材育成を含めた活動の展開を期待する。加えて、令和9年度末に現PFI契約が満期を迎えることに伴い、備品及び修繕項目の棚卸等に協力するとともに、中東情勢の悪化に伴う物価及び光熱費の高騰に備え、効率的な施設運営に努められたい。